JUNGLIA OKINAWA

PROGRESS REPORT

Vol. 2 – 2025.12.19

パークは、皆さまとともに育つ。
止まることのない「対話」と「改善」。

前回のレポートを通じ、私たちのありのままの姿をお伝えしたことに対し、「応援している」「安心した」といった温かいお声を数多くいただきました。

その一つひとつが、私たちの迷いを消し、次なる一歩への確かな道標となっています。

皆さまの声にお応えすることは、課題点の解消だけではありません。
その先にある「もっと楽しい場所」「地域とともに成長していく場所」をつくること。
いただいた期待を１つひとつ目に見える形にし、進化を続ける私たちの、
終わりのない挑戦の続きを第2弾としてご報告します。

Japan Entertainment

より良い体験をお届けするために。

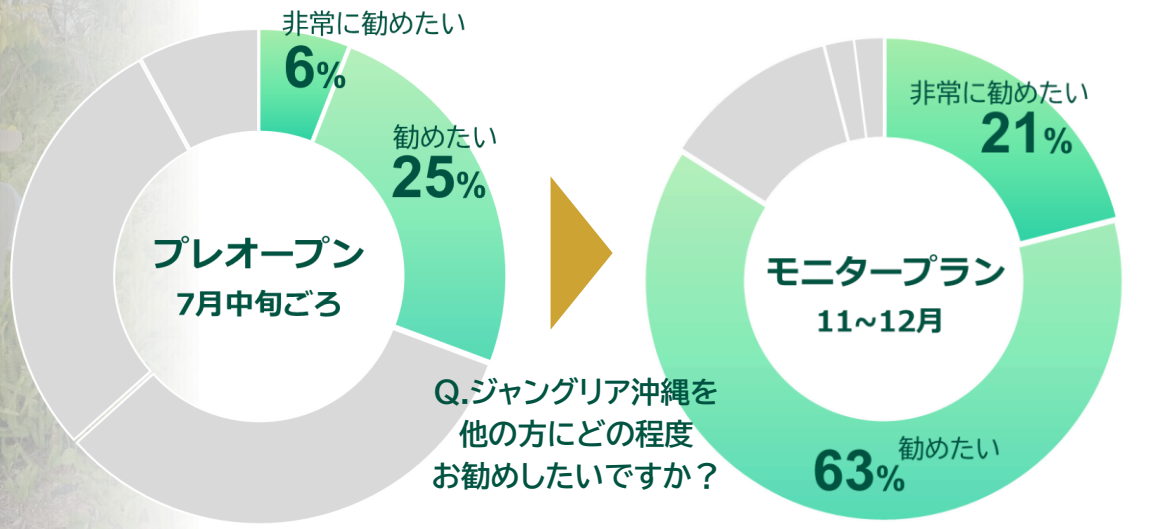
「あの日」の皆さまにこそ、今の姿を。再来場で確認いただく、歩み

開業前、関係企業の皆さまや近隣住民の方々をお招きしたプレオープン。当時は運営オペレーションや設備がまだ万全とは言えない状況にあり、ご期待を持って来場された皆さまに一部ご不便をおかけしたり、厳しいご意見をいただく場面もございました。しかし、私たちはその一つひとつのお声を「より良いパークにするための貴重な財産」と受け止め、開業後の日々の改善活動に徹底して活かしてまいりました。

運営が安定してきた今だからこそ、当時の皆さまに再びご来場いただき、その後の変化を厳しく、そして率直に検証していただきたい。そんな想いで実施したのが**「モニタープラン」**です。

短期間での再来場のご案内に対し、当初は「本当に変わったのか」と半信半疑だった方も多かったかもしれません。しかし、実際に体験いただいた後のアンケート*では、**他の方にお勧めしたいと思われた割合が31%⇒84%に上昇**するなど、私たちの歩みを肌で感じていただけたことを大変嬉しく思います。

もちろん、これで体験の改善は完成ではありませんし、改めてお気づきの点もいただきました。まだまだ道半ばではありますが、いただいたお声を形にし、その変化を直接確かめていただく。このお客様との対話と改善のサイクルこそが、ジャングリア沖縄を育てていく原動力です。これからも誠実に歩み続けてまいります。



Q.ジャングリア沖縄を他の方にどの程度お勧めしたいですか？

プレオープン、モニタープランの両期間来場者の回答を抽出（アンケートフォーム回答数 52）

モニタープラン来場者の声（一部原文から抜粋）

- 待ち時間が前回より短かったのでよかった。
- 休憩場所が増えていた、オペレーションがスムーズだった
- もっとこどもが待たずに遊べる遊具などもあると、親としては助かります。
- 前回もスタッフの対応は素晴らしかったですが、オペレーションが改善し、更にスタッフの対応とアトラクションの魅力が際立つようになったと感じます。
- まだまだ暑さ対策は必要。
- パラソルとベンチ多くなったかな？良いと思う。
- 屋外に並ぶのは疲れたが体験アトラクションはすべて楽しかった。
- アトラクションの安全帯装着がスムーズになっていた。列に並んでいる際に声掛けや注意案内等で気分を盛り上げてくれた。

＊アンケート調査概要： 11月8日(土)～12月16日(火) モニタープラン体験者(有料での体験者)にパーク内で行ったアンケートフォーム回答(総回答数:194)をもとにコメント引用、集計。

より良い体験を
お届けするために。

ジャングリア沖縄では、ジャングリア沖縄では、開業以来いただくお客様の声をすべての起点とし、快適なパーク体験に向けた日々の改善を地道に積み重ねてまいりました。その結果、運営オペレーションの円滑化やシステム・環境改善が進み、ゲスト満足度は着実に向上しています。

より快適になったパーク基盤の上で、さらに限界を超えようとする「チャレンジデー」の取り組みや、新エンターテイメント体験の継続導入、人生の門出を祝う「フォトウエディング」など、多様なニーズに応える新たな感動体験への広がりをご紹介します。

より多くの方に、大自然での絶叫と興奮を。26年、新大型ライドアトラクション導入

ジャングリア沖縄は、開業時が完成形ではありません。広大な敷地には開発の余地を十分に残しており、今後もアトラクションや飲食施設への積極的な投資を行い、体験価値を高め続けていく計画です。

7月開業より約5か月が経過し、多くのお客様をお迎えできていることに深く感謝申し上げます。この着実な来場実績を背景に、本ライドアトラクションへの新規大型投資を計画通り実施することができました。今後もジャングリア沖縄でゲストの皆さまの声に真摯に向き合い、より良いパーク体験の創出に向けた積極的な投資を継続してまいります。

開業後の順調なスタートを受け、その第一弾となる大型投資として、2026年GWごろに新アトラクション「やんばるトルネード」を導入いたします。「ジャングルエクストリームズ」エリアの奥に登場するこのライド型アトラクションは、やんばるの森の中で風を切り、時に天地が逆転するような、これまでにない爽快な絶叫体験をご提供します。このアトラクションの大きな特徴は、その「体験可能人数」の大きさです。同エリアの既存施設に比べて一日あたりにご案内できる人数が大幅に増えるため、整理券なしでもスムーズにお楽しみいただける運用を見込んでいます。「大自然の中での興奮」を、より手軽に、より多くの方へ。私たちは、運用改善というソフト面の努力に加え、こうした設備投資によるハード面の拡充も進めることで、待ち時間の短縮や混雑緩和といった課題を大きく解決し、皆さまにより快適なパーク体験をお届けしたいと考えています。

人生最高に心昂る瞬間を、大自然の中で。「ジャングリア フォト ウエディング」 スタート

この冬からの新しい取り組みとして、特別な一日を彩る「ジャングリア フォトウエディング」をスタートいたします。日中は数千人のお客様で賑わうジャングリア沖縄で、一般ゲストがいらっしゃらない開園前の静寂な時間帯に「貸切」で特別な時間を過ごすことができます。

昨今、結婚式のスタイルが多様化する中で、「形式にとらわれず、二人らしい記憶を残したい」というカップルが増えています。私たちが提案するのは、単なる記念撮影ではありません。誰もいない早朝のパークを貸し切り、タキシードとドレスを纏って、冒険の旅に出る。それは、他では絶対に味わえない「体験」そのもの。

大切なパートナーと、誰にも邪魔されない特別なひとときを過ごしながら、他では味わえない非日常体験をご用意しました。 例えば、普段は立ち入ることができない巨大なブラキオサウルスの足元まで近づいての迫力あるカットや、広大なジャングルの絶景がまるで二人だけのために存在するような、スケール感あふれる一枚を。人生で最高の節目となる「結婚」という瞬間と、人生最高に心昂る「パワーバカンス」が交錯する。おふたりの生涯の思い出作りをお手伝いいたします。

また、この特別な体験をまずは地元の皆さまにお届けしたいという想いから、沖縄県在住のカップルを対象とした無料モニター企画なども募集いたしました。 よりジャングリア沖縄が多くの方にとって「特別な、かけがえない思い出の場所」であるよう、これからも取り組みを拡大していきます。

より良い体験をお届けするために。

満足度の「その先」を目指すチャレンジデー。改善の積み重ねと、現場の新たな挑戦

前回のレポートでお伝えした通り、私たちは開業当初の課題に対し、アトラクションの運営手順の見直しや、待ち列解放サービスの導入、暑さ対策の強化など、一つひとつの改善を地道に積み上げてまいりました。おかげさまで、直近のパーク体験満足度は開業時と比較して大幅に向上し、お客様からも「快適になった」「スムーズに楽しめた」といった温かいお声をいただけるようになってまいりました。

しかし、私たちは「ご不便を解消したこと」だけでは満足しておりません。「もっと多くのお客様に、最高の体験をお届けしたい」。そんな現場スタッフの自発的な熱意から、新たな取り組み「チャレンジデー」が始まっています。これは、安全の確保を大前提に、チームの最大出力を引き出すための実地シミュレーションです。基本的な運営改善が定着した今だからこそ、さらにその先へ。「1時間あたり、あと10人、いや、あとお一人でも多くご乗車いただくにはどうすればいいか」。まるでスポーツのタイムトライアルのように、1秒単位で手順を見直し、連携を磨き上げています。

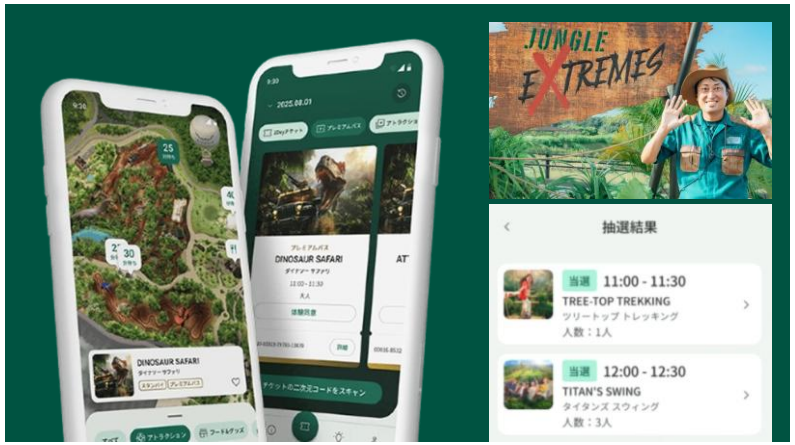
この活動は現場の従業員がリードし、そこに設備面やテクニカル面でのサポートや運営のプロフェッショナルによる検証を加えることで、運営の精度を極限まで高めようとするものです。現状に安住せず、さらなる高みを目指して。私たちの挑戦に終わりはありません。

ピークを避け、特別な夕方～夜の体験へ。新たなコンテンツ投入で、新たな滞在を創出。

開業当初、朝一番に多くのお客様が集中し、待ち時間の発生などご不便をおかけしておりました。私たちはこの課題に対し、すでに行った分散案内や午後チケット施策だけでなく、「夕方から夜にかけての時間を、もっと魅力的なものにする」というポジティブな解決策として、11月下旬から特別な体験を続々と増強しご提案しています。ホライゾンバルーンの奥に連なる山々に夕陽が沈むマジックアワー。ジャングリアは、夕暮れ時こそ真価を発揮します。

例えば、パークを一望する「インフィニティ テラス」は、音楽家の生演奏とアルコールを嗜む優雅なラウンジへ。一方、闇に包まれた「ダイナソー サファリ」では、漆黒の森を特殊車両で疾走するナイトバージョンが稼働し、昼間とは比較にならない緊張感がゲストを襲います。また、オリオンビール様とのコラボレーションによる「オリオン ナイト バンケット」では、揺らめく篝火(かがりび)と光の演出、そして心躍る音楽ショーの中で、祝祭感あふれるディナータイムをお過ごしいただけます。その他にもスパでの癒やしや豪華なディナーなど、夜ならではの楽しみを凝縮しました。

朝から無理に急ぐのではなく、午後からゆったりと来場し、夜まで遊び尽くして1日を締めくくる。そんな新しい滞在スタイルが定着することでパーク内の混雑も平準化され、結果として全てのお客様により快適な一日をお届けできると考えております。



より多くの方へ、大自然の興奮を。体験枠の拡大と、アプリ抽選制の導入

これまで「ジャングル エクストリームズ」の体験整理券は、開園時からの先着順で配布しておりました。しかし、これには「どうしても体験したい」という熱意あるお客様にお応えできる反面、午後からご来場されるお客様や、朝一番の到着が難しいお客様には体験の機会をお届けしにくいという課題がございました。そこで、より多くのお客様に公平にチャンスをお届けするため、また、そのほかの待ち時間も緩和され、気候も快適になる午後からの時間帯も有効に活用していただくため、11月下旬よりアプリによる「抽選制」を本格導入いたしました。

何度かのテスト運用を経ての実装となりますが、これにより、ご来場時間に関わらず興奮の体験に挑戦いただける環境が整いつつあります。また、抽選制への変更だけでなく、日々の運営改善による「体験枠数(キャパシティ)」そのものの拡大も継続して行っています。「仕組み」と「運営力」の両輪で、一人でも多くのお客様に満足いただけるよう、今後も最適な方法を模索し続けてまいります。

地域とともに歩む。

沖縄の地域社会の良き一員として、共に未来を描いていくこと。その想いは、近隣ホテル・地域施設との連携による成果や沖縄の未来を担う次世代を育む「おきなわ未来づくりプログラム」の始動という形で広がりを見せています。

パーク単体での活動にとどまらず、地域全体でお客様を迎え、沖縄北部の活性化に貢献していく。点から面へと広がり、変化の兆しが見え始めた、地域との共創と新たな循環の取り組みについてお伝えします。

「素通り」から「滞在」へ。地域と共に創る、北部宿泊の新しい循環

これまで沖縄北部エリアには、「美ら海水族館などの人気スポットはあるものの、日帰りで通過されてしまう」という長年の課題がありました。ジャングリア沖縄は、この課題に対し、地域の皆さまと共に「滞在型観光」への転換を目指しています。それは、ジャングリア単体の集客だけが目的ではありません。「沖縄旅行全体を最高のものにする」ために、北部に滞在し、ゆったりと時間を過ごす旅のスタイルをご提案したいと考えています。

おかげさまで開業から数ヶ月、パートナーホテル様のご尽力もあり、嬉しい変化が見え始めています。例えば、「カヌチャリゾート」様ではもともと繁忙期にあたる7～9月においてもさらに稼働率が前年同期比で約120～140%と大幅に伸長し、そのほかのホテルでも前年を上回る状況が続いています。さらに通常需要が落ち着く秋～冬にかけては稼働の底上げ効果もみられ、北部の宿泊需要が動き始めています。さらに、拡大する需要に応えるため名護市内などに複数、新規のホテル開発が進行中と報じられるなど、地域の期待も引き続き高まっています。

北部に宿泊いただくことで、さらに北にある世界自然遺産「やんばる」の森など、これまで足を運びづらかったエリアへの観光も容易になります。ジャングリアをきっかけに、沖縄の奥深い自然や文化に触れる機会が増え、地域全体が潤っていく。これからも近隣施設や地域の方々と手を取り合い、そんな「素晴らしい旅」の循環を創り出してまいります。

「点」から「面」へ。北部エリア全体を楽しむ、周遊観光の推進

ジャングリア沖縄が目指すのは、テーマパーク単体で利益を上げるモデルではなく、私たちが起点となってお客様の流れを作り、沖縄北部、ひいては県全体の観光活性化に貢献することです。開業から数ヶ月、この「周遊」の流れはすでに実を結び始めています。近隣の観光施設様からは、ジャングリア沖縄へお越しのお客様が前後に立ち寄られることで、新たな賑わいが生まれているとのお声をいただいております。

OKINAWAフルーツらんど 代表取締役 安里博樹 様「グループ全体の売上が各月ともに前年同月比110%と好調に推移しています。ジャングリア開業により素通り観光の改善、北部での滞在時間増、宿泊・飲食・お土産などの地元関連産業への波及効果、北部周遊需要が高まることを期待しています。」

森のガラス館 代表取締役 稲嶺秀信 様「2025年7月、8月ともに売上が前年比15%増で推移しています。北部周遊チケットの販売により、今後さらに周遊が活性化することを期待しています。」

地域の皆さまとの連携をさらに深めるため、私たちは「沖縄北部満喫ポータルサイト」を公開し、相互に魅力を発信する取り組みを始めました。あわせて、ジャングリア沖縄の1Dayチケットに、北部にある8つのパートナー施設様の入場券を選んでセットにできる「沖縄北部周遊セットチケット」の販売も開始。素晴らしい北部観光の輪の中に、私たちも根を下ろし、共に歩んでまいりたいと考えています。

地域と共に、次世代を支える。「おきなわ未来づくりプログラム」の成果と展望

ジャングリア沖縄が目指しているのは、単なるレジャー施設としての成功だけではありません。「地域にとって意味のある存在」として、沖縄の未来を共に創り上げていくことこそが、私たちの使命だと考えています。

その具体的なアクションとして、開業以前から県内企業様を中心に30社以上の企業と連携し推進しているのが「おきなわ未来づくりプログラム」です。このプログラムは、企業の皆さまに福利厚生や社会貢献活動の一環としてジャングリアのチケット等を活用いただき、その拠出額の5%に、私たちジャパンエンターテインメントからの拠出額5%を上乗せし、計1割を「基金」として積み立てる仕組みです。

おかげさまで、プログラムへの参加総額は約5,000万円に達し、沖縄の未来のために使える基金の規模はすでに500万円ほどに成長しております。積み立てられた基金は、これからの沖縄を担う子供たちの学習支援や、豊かな自然環境の保護活動など、次世代への投資として大切に活用させていただきます。 楽しい場所であることはもちろん、その賑わいが地域社会への貢献へと循環していく。これからも多くの県内企業の皆さまと手を取り合い、沖縄という土地への恩返しと未来創りを続けてまいります。

「想い」を届けるのは、地域の生徒たち。次世代が企画する、ひとり親招待プログラム

「おきなわ未来づくりプログラム」の基金を活用した記念すべき支援活動第1弾として、沖縄カトリック中学・高等学校様と連携し、県内のひとり親世帯 計100名のゲストをジャングリア沖縄に無料ご招待する企画を実施いたしました。このプロジェクトの最大の意義は、私たち企業が単にチケットを寄付して終わりにするのではなく、沖縄の未来を担う「学生の皆さん自身」が主体となって企画・実行した点にあります。実施にあたり、生徒の皆さんには私たちから「マーケティング」に関する講義を受けていただきました。

その上で、「招待するご家族にどんな体験をしてほしいか」「どうすれば喜んでもらえるか」を生徒自身が徹底的に議論。手作りのガイドマップを作成したり、当日の案内ルートを工夫したりと、相手の気持ちを想像しながら準備を重ねて本番を迎えました。11月8日、9日の両日行われたプログラム当日には、招待されたご家族が心から楽しまれたことはもちろんですが、何より企画した生徒たち自身が「自分たちの考えたプランで、目の前の人が笑顔になる」という瞬間を肌で感じられたことが、代えがたい財産になったと確信しています。

教室での座学だけでは得られない、生きた学びと貢献のサイクル。この経験は、生徒一人ひとりが社会と向き合い、行動することで未来を変えられるという実感を得る機会となりました。私たちは今後も、学びと実践が循環する支援活動を継続してまいります。

地元の皆さまへ、感謝を込めて。県民限定「お子さま無料キャンペーン」

「おきなわ未来づくりプログラム」による基金活動に加え、私たちジャングリア沖縄(ジャパンエンターテイメント)自身も、地域への貢献をさらに加速させたいと考えています。そこで、開業以来私たちを支えてくださった県民の皆さまへの感謝を込め、県内の小学生・中学生までのお子様を対象とした無料ご招待キャンペーンを2025年12月1日(月)～2026年2月1日(日)まで実施しています。本キャンペーンは、県内在住の大人1名につき、お子様1名を無料でご招待するというものです。(写真は、沖縄県庁での施策発表の様子)

開業以降、多くの県民の皆さまから「この体験を地元の子どもたちにもっと味わわせたい」「家族で楽しめる機会を増やしてほしい」という貴重なご意見をいただいておりました。今回はその声にお応えするとともに、単にお子様を招待するだけでなく、親御様と一緒に体験いただくことで「家族の絆」を深めていただきたいという願いを込めています。

また、季節も穏やかになり、日々の改善によってパークの運営体制も非常に安定してまいりました。「快適に、スムーズに楽しめるようになったジャングリア」を、まずは支えてくださった地元の方々にこそ体感していただきたい。そんな私たちの自信と感謝の証です。 これからも沖縄の未来を担う子供たちと、それを支えるご家族の笑顔のために、地域に根差した活動を続けてまいります。

沖縄の未来を担う「人」と共に。

パークでの最高の体験は、素晴らしい「人」の力によって生まれます。約1,300名のメンバーの多くを地元出身者や在住者が占める、その温かなホスピタリティはさらなる進化を続けています。

新たに立ち上げた公式noteでは、そんな彼らの「熱量」やストーリーをありのままに発信していきます。また、現場変革を牽引する新卒第一期生の活躍や、26年卒内定者の新たな決意など、沖縄の地で誇りを持って働き、成長のバトンが次世代へとつながっていく様子をご紹介します。

レポートには収めきれない試行錯誤も、迷いも、包み隠さずに。 公式note開設

ジャングリア沖縄では、この「PROGRESS REPORT」などを通じて、活動の成果や今後の計画を可能な限りオープンにお伝えしています。しかし、整理された紙面や公式のニュースリリースだけでは、どうしても伝えきれない「熱」があります。それは、私たちが日々直面している悩みや、正解のない問いに立ち向かう試行錯誤のプロセス、そしてアトラクションやサービスの奥底に込めた、スタッフ一人ひとりの個人的な「想い」です。

そこで、完成された「表側の情報」だけでなく、そこに至るまでの「裏側の物語」をより深く、体温の通った言葉でお届けするために、「公式note」を開設いたしました。ここでは、日々少しずつ前進していく改善の裏側にある、決してスマートとは言えない泥臭い挑戦の記録や、各地からこの沖縄の地に集まった多様なクルーたちが、どんな情熱を抱いてエンターテインメントを創り出しているのかという「人」のドラマを綴ります。さらに、パークの塀の中だけにとどまらない、地元の皆さまとの温かい交流や連携、沖縄という土地と共に生き、共に育っていく私たちの「地域との共生」の様子など、数字やスペックには表れないエピソードも丁寧にお伝えしていく予定です。

ジャングリア沖縄を構成するのは、最新の設備だけではありません。そこにある「人の想い」や「地域の絆」を知っていただくことで、パークでの体験がより味わい深いものになるはずです。PROGRESS REPORTと合わせて、私たちの等身大の物語をぜひご覧ください。

現場を変える「新卒の機動力」と、さらなる未来を担う26卒内定者の意気込み

ジャパンエンターテイメントが開業当初より重要テーマとして掲げてきた「高度観光人材の育成」というビジョンが、新卒第一期生たちの目覚ましい活躍によって、確かな成果として実を結び始めています。現在、アトラクションの待ち時間短縮や体験価値の向上を目指す重要な業務改善プロジェクトを牽引しているのは、新卒第一期生として入社したメンバーたちです。

彼らは、オペレーションのスペシャリストとして運営の精密化や効率化を深く学び実践しています。その一方で、ゲストサービスの最前線に立つ者として目の前のゲストからいただいた生の声を拾い上げ、それを即座に具体的な施策へと反映させていく卓越した「機動力」は、組織全体に良い影響を与えています。これこそがまさに私たちが計画していた高度観光人材の育成の姿であり、学びを即座にアクションへと昇華させる彼らの姿勢が、パーク運営の進化を支えています。

こうした若手社員が主役となって躍動する中、去る10月1日には、2026年春に入社を予定している総合職採用の内定者4名を迎えた内定式を執り行いました。式典では、経営陣より内定者へ向けて「ここにはたくさんのチャンスと可能性がある。ぜひ、持続可能な事業づくりに協力してほしい」と熱い激励の言葉が贈られました。 次世代を担う新たな力が加わることで、さらなる飛躍と持続的な成長を進めていきます。

「PROGRESS REPORT vol.2」の発行に寄せて

開業3ヶ月の節目に発行した前回のレポートに対し
私たちの想像を遥かに超える多くの反響をいただきました。
「こんなにも地道な改善をしていたのか」という驚きの声や、
「もっと作り手の想いやこだわりを知りたかった」という温かいご期待。
さらに社内のチームやパートナー企業の皆さまからも、
「自分たちの取り組みもぜひ伝えてほしい」という熱い声が沸き上がりました。

このことからも、今のジャングリア沖縄にとって最も大切なのは、
成長途中の「ありのままの姿」をオープンにお伝えしていくことだと、改めて実感いたしました。

「PROGRESS（プログレス）」とは、進捗であり、終わりのない進歩のことです。
一度の報告で完結するものではありません。
日々悩み、試行錯誤しながらも前進し続ける私たちの現在地を、赤裸々にお伝えし続けること
それこそが、皆さまからの信頼をいただく唯一の方法だと信じています。

本レポートでは、前回以降に進んだ新たな取り組みや、伝えきれなかった活動を中心にまとめました。
今後も歩みを止めることなく、このレポートを定期的に発行してまいります。
常に変わり続け、進化し続けるジャングリア沖縄を、これからもどうぞよろしくお願いいたします。

ジャングリア沖縄

JUNGLIA
OKINAWA

株式会社ジャパンエンターテイメント

２０２５年１２月１９日